

しんじゅうにしもんきょう
 展示品「四神十二支紋鏡」 隋～唐（6～7世紀） 径 16.9 cm 559 g

鈕の周りを四神（玄武：北 青龍：東 朱雀：南 白虎：西）が取り囲み、玄武に近い位置の子（鼠）を基点として時計回りに十二支（十二生肖）が表現されています。

四神や十二支像の周りに小さな雲のような模様が浮かんでおり、これらの諸像が天上界の存在であることを物語っています。



えと 干支 子 ね/シ



令和2年1月2日(木)～3月10日(火)

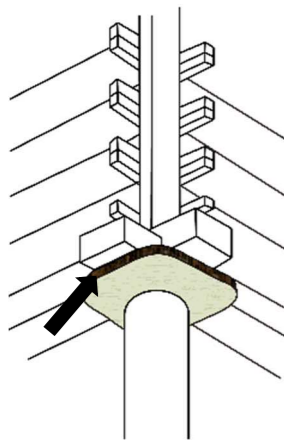
「令和2年の干支(えと)は何」と聞かれると、ほとんどの方は「ネズミ」または「子(ね)」と答えるでしょう。このように、今日では十二支「子」は動物の「ネズミ(鼠)」にあてられており(十二生肖)、「子」年も12年に一度巡ってくることになっています。しかし、本来の干支(えと)は60年で一巡りしており、令和2年は最初の「甲子」からはじめて37番目の「庚子(こうし/かのえね)」の年にあたります。

本展では、当館が所蔵する千石コレクションの中から、四神（玄武、青龍、朱雀、白虎）と十二支の動物たちが描かれた「四神十二支紋鏡」1面を展示し、干支(えと)と十二支についてご紹介します。



四神十二支紋鏡（図録183） X線画像

「ネズミ返し」



学校の社会や歴史の時間にこの言葉を習った方は多いと思います。ネズミが建物内に侵入するのを防ぐため、地面に立つ柱や梯子に水平方向に取り付けた板のことで、日本では、米作りが広まった弥生時代以降、食料を貯蔵しておく高床式倉庫にみられます。弥生時代の人々にとって、ねずみの存在が大きかった証拠といえます。

ねずみ返しを持つ高床倉庫は、中国の雲南・海南、台湾から東南アジアまで広くみられます。さらにヨーロッパからシベリアにいたるユーラシア大陸にもみられ、スイスでは、石製のネズミ返しを取り付けた木造の古民家が、「ネズミ返しのある家」として観光の対象となっています。

◆ 開催中の企画展 古代鏡展示館 展覧会のお知らせ

◆ 開催中の企画展 「龍 翔ける！」 令和2年3月10日(火)まで

◆ 次回の企画展 「美と微 一美の集積と技巧の微一」

令和2年3月13日(金)～9月22日(火)



主催 古代鏡展示館（兵庫県立考古博物館加西分館）
 加西市豊倉町飯森 1282-1（県立フラワーセンター内）
 電話 0790-47-2212
 後援 兵庫県 兵庫県教育委員会

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
 Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors
 加西市豊倉町飯森 1282-1（県立フラワーセンター内） 0790-47-2212

「えと」って何？

干支の例 十干 十二支 十干十二支
 甲(こう) + 子(し) = 甲子(こうし/きのえね)

「えと」は漢字で「干支」と書きます。

今日では「えと」=「ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、い」といった十二支の動物をイメージしますが、本来は「十干十二支(じっかん じゅうにし)」を省略した言葉です。

- 十干： 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸 の10種
こう おつ へい てい ぼ き こう しん じん き
- 十二支： 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥 の12種
し ちゅう いん ぼう しん し ご び しん ゆう じゅつ がい

十干と十二支を順番に組み合わせていくと、60とおりの組み合わせができます。

古代中国の商(殷)の時代(約3,500年前)には、この十干十二支を使って60日で一巡する暦を表していましたが、後に方位や年を表すようになります。干支で年を表現する方法は、日本には日本書紀の記載や出土品などから古墳時代(約1,500年前)頃には伝わったと考えられています。

		五行				
		木	火	土	金	水
		甲	丙	戊	庚	壬
陰陽	兄	きのえ	ひのえ	つちのえ	かのえ	みずのえ
	弟	乙	丁	己	辛	癸
	と	きのと	ひのと	つちのと	かのと	みずのと

(※)五行 こぎょう
 この世の事柄は5つの要素の変化により生じるとする考え方

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
漢字	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
音読み	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい
訓読み	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い

十二支の「音読み」と「訓読み」

日本では十干を陰陽と五行(※)にあてはめました

◎◎◎ 干支で呼ばれる著名なできごと ◎◎◎

- 庚午年籍** (こうごのねんじゃく/670年)
天智天皇9年(670)庚午(かのえうま)の年に作られた、全国的規模のものとしては最古の戸籍
- 壬申の乱** (じんしんのらん/672年)
天智天皇の死後、その子大友皇子と弟大海人皇子の皇位継承を巡る内乱
- 壬辰倭乱** (じんしんわらん/朝鮮/1592年)
豊臣秀吉が明の征服を目的に朝鮮に出兵した侵略戦争。日本では「文禄の役」といいます
- 戊辰戦争** (ぼしんせんそう/1868年)
幕末~明治初の倒幕派と旧幕府軍による戦争。鳥羽伏見の戦い~五稜郭の戦いまで
- 阪神甲子園球場開園** (こうしえんきゆうじょう/1924年)
大正13年が甲子の年であったことから名付けられました

◎◎◎ 今でも使っている十二支の表現 ◎◎◎

- 【方位】**子午線** (しごせん)
地図の南北線(経線)のことで、東経135°の経線は明石天文科学館を通っています
- 【時刻】**正午・午前・午後** (しょうご・ごぜん・ごご)
午の刻(11時~13時)の真ん中(12時)を正午、その前後を午前、午後といっています
- 【時刻】草木も眠る **丑三つ時** (うしみつとき)
丑の刻(午前1時~3時)を4分割した3番目の時間。現代では午前2時~2時30分をさします

	十二支 (1巡目)												十二支 (2巡目)												十二支 (3巡目)												十二支 (4巡目)												十二支 (5巡目)												【干支順位表】
	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	
甲	1	11	21	31	41	51	2	12	22	32	42	52	3	13	23	33	43	53	4	14	24	34	44	54	5	15	25	35	45	55	6	16	26	36	46	56	7	17	27	37	47	57	8	18	28	38	48	58	9	19	29	39	49	59	10	20	30	40	50	60	1番「甲子」から60番「癸亥」まで順番に移動し、60番の次は1番に戻ります

「十二支」が動物に (十二生肖)

十二支の「子・丑・寅・・・」は、本来「日」や「方位」を示すもので、動物を意味するものではありませんでした。

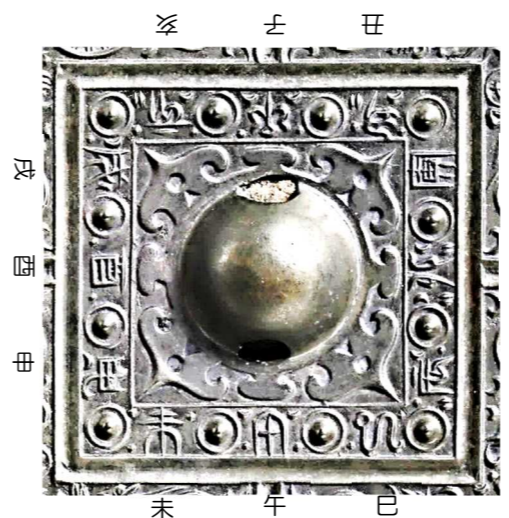
それが、遅くとも秦の時代(約2,200年前)になると、なぜか動物が割り当てられるようになり(※1)、後漢の時代(約1,900年前)には現在の動物にまとまります(※2)。

動物を割り当てたこの十二支は「十二生肖」と呼ばれます。今日私たちが「えと」とよぶものと同じものです。

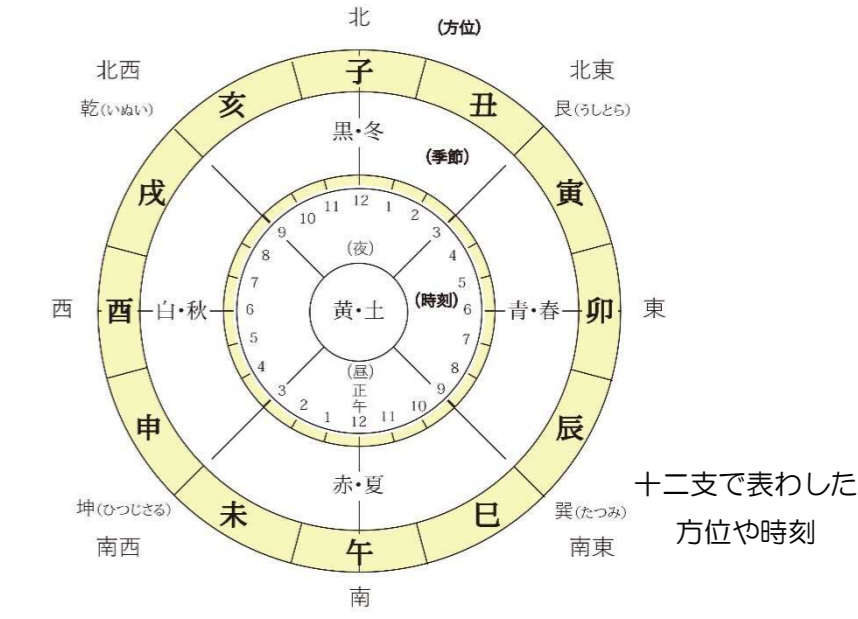
(※1) 湖北省雲夢県睡虎地十一号秦墓『日書』
 (※2) 王允『論衡』物勢篇

十二支	十二生肖
子	鼠 ねずみ
丑	牛 うし
寅	虎 とら
卯	兎 うさぎ
辰	龍 りゅう
巳	蛇 へび
午	馬 うま
未	羊 ひつじ
申	猿 さる
酉	鳥 とり
戌	犬 いぬ
亥	猪(豚) いのしし(ぶた)

十二支と十二生肖



文字で表された十二支 (図録 131)
 方格規矩四神鏡の鏡背面の中央部分
 新(王莽) 約2,000年前



十二支で表わした方位や時刻